

子宮頸がんに対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術（先進医療）のご紹介

先進医療とは？

厚生労働省が定める「高度な医療技術を用いた治療」のことで、高度の技術を要する外科療法や放射線療法、抗がん薬などの薬物療法、免疫療法などさまざまな治療法が含まれます。先進医療を行うには、医療技術の認定のほかに、医療機関が実施機関として先進医療ごとに厚生労働省から認定を受けなければなりません。つまり、どの医療機関でも先進医療を受けられるわけではないのです。

腹腔鏡下広汎子宮全摘術（子宮頸がん）とは？

子宮頸がんに対する手術（広汎子宮全摘術）は、これまですべて開腹手術でおこなわれていましたが、近年の技術・機器の進歩とともに、より体への負担が少ない腹腔鏡で行うことが可能になってきました。腹腔鏡下広汎子宮全摘術は、より小さな傷で患者さんの負担が少ない腹腔鏡を用いて子宮頸がんの手術をおこなうものです。

腹腔鏡手術を導入することにより、微細な組織や血管の同定が可能となり、より出血量の少ない手術が可能となります。術後の痛みは少なく、入院期間の短縮や早期社会復帰が可能となります。当院は2016年11月より先進医療「腹腔鏡下広汎子宮全摘術（子宮頸がん）」実施施設に認定されました。

腹腔鏡下広汎子宮全摘術は、誰でも受けることができますか？

子宮頸がんの場合、進行期 IA2 期、IB1 期、IIA1 期など比較的早期の患者さんが腹腔鏡手術の対象となります。しかし、これらの進行期であっても、患者さんごとの病気の状態によっては、適応とならない場合もあります。手術適応については担当医とご相談ください。

先進医療の費用負担について

先進医療はその手術に関する費用が自己負担となり、残りの入院費が保険適応となる、いわゆる混合診療になります。患者さんにとっては、全て自費で行う時と比べ、半額程度の自己負担になりますが、費用の概算は以下のようになります。

費用概算

腹腔鏡下広汎子宮全摘術の手技料は先進医療として全額自己負担となりますが、検査料や入院料などは保険診療が適用となります。

具体的な料金は診療内容や入院日数、加入されている健康保険の負担割合などによって異なりますが、参考として以下の場合の例を示します。

< 10日間の入院・3割負担の方 >

手術料	709,000円	(先進医療のため全額自費)
検査・入院料	約140,000円	(保険診療として3割分)
食事	約9,000円	(標準負担額)
合計負担額	約860,000円	

尚、保険診療分は高額療養費の対象となります。

また、生命保険や医療保険の中には先進医療に対しての給付を行っているものもありますので加入されている保険会社へご確認をお願いします。